

柏市 中核市の意義と展望について

平成25年8月20日視察

町田市議会 志政クラブ 吉田つとむ

<柏市について>

柏市は平成20年に中核市に指定され、5年が経過しています。人口は皆南町と合併したこともあって、40万人を超えています。面積は約115平方キロメートルと町田市より、幾分広い地域です。

交通はJR常磐線、東武野田線が交差し、町田市と地形的にも街の姿もとても似た形をしています。駅前のペDESTリアンデッキとその周辺のビル群を見ると、より一層その形態が似通っていると言えます。

柏市は、近在では最も中心部に商業集積が進んでいます。ただし、郊外には大型のショッピングモールが形成され、そのことを含めて町田市と似た街となっています。

以前は中核市の要件を満たしていませんでしたが、合併と要件緩和を契機にして中核市に移行したものです。

柏市は町田市・相模原地域と同様に「業務核都市」とされておりながら、行政の中ではそうした意識はさほど見られず、「自立都市」がスローガンになっていました。＊ パンプ「柏市第四次総合計画後期基本計画」（概要版）には、自立都市実現に向けて「中核市」という存在を活かす記述がありますが、都市整備を含めて「業務核都市」という名称を発見することはできませんでした。

<中核市について>

地方公共団体の中で、地方自治法第252条の22第1項に定める政令による指定を受けた都市であり、日本の大都市制度の一つです。現在の指定要件は、法定人口が30万人以上であることですが、過去には面積要件や、昼間人口などの制限がありました。

当初、平成8年に12市が中核市に移行し、その後、ほぼ毎年、中核市に移行する都市が誕生し、現在42市となっています。その他、八王子市を含めた6市が候補市となっています。今後、相当する都市の多くがこの中核市に移行

するか、移行の兆しがあります。

他方で、相模原市のようにより大規模の都市においては、以前に中核市であった都市で、近年になってさらに、政令指定都市に移行する都市もあります。中核市としての実績が政令指定都市に移行することにつながっているものと思われる。

<中核市の近況>

町田市の隣の八王子市は、「独自性を発揮したまちづくりを進めるために ～中核市で描こう八王子の未来～」として、平成 27 年 4 月に中核市への移行を顕在化しています。その内容には、「分権時代をリードする自治体として、更なる行政能力の向上に努め、「多摩のリーディングシティ」として市民の皆さんの期待に応えていきます。」としています。

<中核市と言う制度について>

中核市には保健所の設置が義務付けられており、柏市は千葉県から業務を引き継いで以降、保健所単体の事業から、保健福祉業務を柏市総合保健医療福祉施設に集約した事業に変換しています。相模原市の区役所を見学した際にも、福祉業務を集約する施設が造られていました。

町田市の場合、この中核市に関して、それを目指すのか、それとも目指さないのか、まだ不透明な部分があります。町田市は保健所業務を東京都から移管され、近い将来、建物の建て替えを余儀なくされます。その他、「中核市」は町田市が実施する「包括外部監査」の導入も義務付けられています。

しかし、民生行政の分野でその事務を中核市が行うことになっています。これ以外の分野での事務移管では十分な判断をするだけの自分には分析ができていませんが、「中核市」に名乗り出る自治会が増えるのは、そうした選択を行う自治体が自立都市としてのリーダーシップを取れるとの判断を見ることができません。柏市の選択を見ると、その動きそのものです。